

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3070100296
法人名	社会福祉法人 浩和会
事業所名	竹の里園グループホーム
所在地	和歌山県和歌山市明王寺3-1 (電話) 073-466-2233

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成20年10月16日	評価確定日	平成20年11月6日

## 【情報提供票より】(19年12月17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建て	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	月額	30,000円	

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2		3 名	
要介護3	1 名	要介護4		3 名	
要介護5	2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 83.5 歳	最低	68 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹の里園診療所、向陽病院、秋月歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は「地域に溶け込んだ安らぎのある生活環境をつくります」という理念を自分達で考え、入居の年数が長く車椅子の利用や重度化で対応の困難な利用者も多いが、職員はそれぞれの利用者に寄り添い、笑顔を忘れず温かく接している。ホームに幼稚園児が訪れ、プレゼントや肩たたきなど交流しており、また老人会の芸能発表会への参加や法人の開催する夏祭りに参加するなど、地域の人々との交流に積極的である。業務の中で利用者について気付いたことを「気付きカード」に記載し職員が共有しており、介護計画の作成やサービスの実施に活かしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善課題については、理念に地域密着型サービスの役割を付け加えたり、市の担当者と連携を図るなど、改善への取り組みがなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の自己評価は、職員が評価票に目を通し各項目についての取り組み状況を確認し、管理者が取りまとめた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議ではホームの近況や事業計画・基本方針、行事、外部評価などを報告し議題とし、構成メンバーから意見を出してもらい、それらをサービスの向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族と気軽に話せる人間関係を築いており、面会時や家族交流会等で意見を聞いたり、ホーム内に意見箱を設置している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の老人会が主催する芸能発表会を見に行ったり、ホームへ地域の幼稚園児や子供達が来てくれて交流している。また法人が行う夏祭りに参加し、地域の人々と交流している。しかし利用者の重度化に伴い、ホーム外での地域活動に参加するのはだんだん困難になってきている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考えて「地域に溶け込んだ安らぎのある生活環境をつくれます」ということを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関のに入ったところに掲げ、管理者・職員一人ひとりが、自分たちで作った理念であるということで共有しており、利用者が安らかな生活が出来るように支援している。また地域の人々との交流にも努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会が主催する芸能発表会に見物に行ったり、また地域の幼稚園児が訪れ、プレゼントを贈られたり、肩たたきや手遊びをしてもらって一緒に楽しい時間を過ごしている。ホーム内で地域の子供達との交流会も行なっている。法人の夏祭りにも参加して地域の人々と交流している。ただ利用者の重度化に伴いホーム外での地域活動に参加することはなかなか困難な状況にある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員が評価票に目を通し各項目の取り組み状況を確認し管理者が取りまとめた。前回の外部評価については、理念に地域密着型サービスの役割を付け加えたり、市の担当者との連携を図るなど改善への取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に関催し、ホームの近況や事業計画・基本方針、行事、外部評価等について報告し、構成メンバーから質問や意見を出してもらい、これらの意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの運営上の質疑について、市の担当者に電話で尋ね解答を得て、サービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話で利用者のホームでの暮らしぶりや健康状態を欠かさず報告している。また預かり金については、3か月ごとに通帳のコピーを送り、面会時に収支を記載した帳簿に確認の印を押してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族交流会等で意見を聞いたり、気軽に話しが出来る人間関係を築いており、またホームの玄関を入ったカウンターの上に、意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけ少なくするようにしている。新しく職員が入ってきたときは、例えば洗濯物の処理など何事も利用者と一緒に行うことにより、徐々に馴染んでもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で感染症予防、ホーム内では事故・ヒヤリハット事例について研修を受けている。また職員は毎年認知症介護実践者研修や実践リーダー研修、ケアマネジャー研修を受けている。また県グループホーム連絡会の行う管理者研修や、職員は交代で同会の行う勉強会にも参加している。なお受講内容は、職員会議の開催時に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に参加しており、職員は交代で勉強会に出席し、受講後他の職員に伝達している。また他のグループホームと相互訪問研修を行っており、他ホームのよいところを学んで、サービス向上の参考にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後、慣れるまでは家族と連絡を密にし、必要に応じてホームに来てもらい、不安を取り除いて心を落ち着かせるようにし、徐々にホームに慣れてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に季節の催し物や行事を楽しむようにしており、出来る人について洗濯物を干したり、たたんでもらったり、料理を手伝ってもらう中で、利用者から料理の味見の仕方などを教えられることがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人から希望や意向を把握することが難しいので、家族から希望等を伺って本人の思いに近づけるよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、日ごろの業務の中で利用者について気付いたことを相談し、「気付きカード」として記載し、職員室の壁面に張っている。介護計画は、この「気付きカード」を利用したり、職員間でよく話し合っ協議し、利用者家族の意向を尊重して、利用者がホームでより良い生活が送れるように考え作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに見直しているが、本人の心身の状況に著しい変化が見られたときは、「気付きカード」を参考にして新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内で医療連携体制をとっており、併設の診療者の医師や特養の看護師とすぐに連絡がとれるようになっている。また利用者の容態が急変したときは、ホームで病院への移送サービスも行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者・家族から希望を聞いて、従来のかかりつけ医やホームの協力医療機関から適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	併設診療所の開所は週3回であるが、容態に変化があれば医師に回診してもらうことができ、特養の看護師とは24時間連絡可能な体制をとっている。利用者が重度化した場合や終末期をどのように迎えてもらうか、家族の希望を聞いて職員間で話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを傷つけることがないように、言葉かけや対応に注意している。また記録等個人情報は洩らさないようにし、職員の部屋で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はその日の業務を優先させずに、利用者の日々の希望に沿って支援している。食事中に何かしたいとか、早朝目を覚ましてすぐ食事をしたいという利用者には職員はきちんと説明して納得してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるように利用者の嗜好に沿い、味付けや季節のものを出したり、バランスのある料理を心がけている。利用者で出来る人には、野菜の皮むきやおにぎり作りなどの食事の準備や後片付けを手伝ってもらっている。また自分で食べるのが困難な人には職員が食事介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望に沿って毎日入浴できる体制をとっており、午後から夕方までの間でゆっくり入浴が楽しめるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付けの手伝いや、屋外でプランターや鉢植えの花の手入れをする人もいる。また趣味の編物をしたり、絵を描いて楽しむ人もいて、職員はこれらを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前は少し離れた四季の郷公園まで散歩に出かけたが、体力的に困難な人が増え、気候のよい時期には職員と一緒に室外に出て外気浴を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中(8時半頃から6時半頃)は玄関には鍵をかけていない。この間利用者の所在や様子を見守って安全を確認している。居室には鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に年2回法人合同で行う避難訓練に参加しており、避難経路の確認などの訓練を消防署の協力を得て行っており、地域の消防組織(矢田消防団)と連携・交流をもち、緊急時における速やかな対応を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスについては、併設の特養の栄養士に献立を見てもらい、助言してもらっている。野菜摂取を多く、また季節の食材を使うことを心掛けている。なお水分は、食事以外に午前・午後・夜にとっており摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口に絵画を掲げ、共同空間は広くゆったりしている。壁面には色紙でコスモスの花を切り抜いて台紙に貼ったり、季節の花を活け季節感を出している。また壁面に行事の写真や、幼稚園児からの折り紙のプレゼントなども飾っている。天窓から取り入れる光で部屋も明るく、職員の声やテレビの音量も適当と感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族が用意した家具を置き、家族の写真や好みの手芸品を飾ったり、また個人のテレビを見て過ごす人もいて、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		